

ですが、通勤者はもちろん、重要な産業道路でもあります。ところが、赤石から大野町更地間の道幅が非常に狭くて、特に赤石から北野畑の間は大型車が通ると他の車は全く通れません。対向車に大型車が来ると、200メートルから300メートルぐらいその車が通り抜けるまで待たなければならぬ実情です。現在は本巢市の方へ迂回しているというのが現状です。

なぜ今まで拡幅ができなかったかという点、片方が根尾川、片方が名鉄電車の軌道に挟まれていて、なかなか拡幅が難しかったんです。そこで、旧谷汲村では、名鉄谷汲線が廃線となると同時に、拡幅を願ってその線路跡を購入し、拡幅の実現を目指したところです。根尾・谷汲・大野線期成同盟会でも、前は拡幅について強力で訴えてきました。しかし、さつき言ったような事情で実現ができません。拡幅は谷汲地区、特に長瀬地域、住民が千人近くおりますけれども、これは切なる願いです。このことについて、町長のお考えをお聞かせください。

答 宗宮孝生町長

県道根尾・谷汲・大野線の道路改良でございますが、以前から県道根尾・谷汲・大野線改良促進期成同盟会で県当局へ要望をしております。

たが、なかなかお話のように進まないのが現状でございます。平成14年度には未改良区間で名鉄線が廃止され、その敷地を利用する概略設計が揖斐建設事務所において行われ、また現在、谷汲地区の県道改良工事は主要地方道山東・本巢線の名礼、徳積、長瀬地区で実施をしておりますが、県も厳しい財政状況にありま

す。未改良区間の早期の完成というものがなかなか厳しくなっているところが現状でございます。しかしながら、この状況では県道根尾・谷汲・大野線の道路改良が促進をできないということから、長瀬、赤石地区の県道と平行している、町有地であります名鉄廃線敷を県工事の残土処理場として指定をし、県道の高さまでかさ上げというか、盛土をするよう揖斐建設事務所と協議を進めております。この延長は約500メートルに及ぶと思っておりますが、万代橋から上流側で計画をいたしております。その後、盛土が完了いたしましたら2カ所程度をまず待避所として設置をし、安全な通行の確保に努めてまいりたいと考えております。また、万代橋から大野町の来振寺までの区間につきましては、大野町と協議をしながら県道根尾・谷汲・大野線改良促進期成同盟会で、引き続き粘り強く県、あるいは国に対して要望をしております。

森本文一議員

問 県道揖斐川谷汲線の整備促進について

県道揖斐川・谷汲山線は、揖斐川町三輪地内の国道303号から谷汲徳積地内の県道山東・本巢線に通じる幹線道路であり、地域の産業を初めとして、文化・経済の発展に大きく寄与してまいりました。

しかしながら、両地区の境界にある小野坂トンネルは歩道が未設置で、また狭隘であるとともに、老朽化して大変危険な状態である中、トンネル入り口の手前の道路は急勾配であるとともに、谷汲山参拝客によるかなりの車両交通量に反して道路の幅員も狭く、しかも曲線部が連続する道路線形であります。大型車両とのすれ違い等も容易でない状態にあり、また消防車・救急車等の緊急車両の通行に大変支障を来し、その対処がおくれ重大な事態を起こしたケースもあります。さらに自転車通学の高校生も多く、冬には凍結、積雪により交通事故、また交通渋滞がしばしば起こる等の危険性があり、道路改良に対する地元の要望は一段と強くなっております。そこで、新小野坂トンネルの改良が早期に事業着手され、完成に至ることを願って、旧谷汲村と揖斐川町の両町村によって平成11年に県道揖斐川・谷汲山線

整備促進期成同盟会を設立し、また平成14年には地域住民の皆さんにより新小野坂トンネル道づくり委員会も設立されたと聞いておりますが、この期成同盟会は合併と同時に自然消滅といえますか、自然になくなったのか、いや新町行政の中で進められているのか、お聞かせ願いたいと思います。

またそのトンネル改良促進の進捗状況と、その後どのような取り組みをされたのか、先ほどの同僚議員と同じ内容となりますが、今回はこのことについて一点伺いますのでよろしくお願いたします。

答 宗宮孝生町長

御承知のとおり、県道揖斐川・谷汲山線は合併前の旧揖斐川町と旧谷汲村とを結ぶ幹線道路ということ、国道303号に接続をし、あるいは広域的な交流や連携を確保する主要な道路として位置づけております。また、観光の交流拠点への主要アクセス道路としても当地域には欠かせない生活上重要な路線であると認識をいたしております。

しかしながら、現トンネル内での大型車両とのすれ違いが容易でない状態、あるいは御指摘のように消防車・救急車などの緊急車両の通行にも支障を来し、緊急業務の対処にお